

## 第 11 回超領域社会工学研究会報告書

第 11 回目の研究会を 6 月 29 日（土）に目黒区自由が丘住区センター会議室において開催致しました。参加者は 7 名です。

発表者と発表テーマは下記の通りです。

長井壽満 『孫悟空』ポルノグラフィティ

時代を越えて人気のある『西遊記』ですが、実は政治も宗教、哲学も関係なく「食われる者」と「食う者」の間の荒唐無稽な与太話であるとのこと。そのテーマは、三蔵法師という類まれなる食材とこれを手に入れて食べようとする妖怪たちのお話だそうです。三蔵法師は高級食材として扱われ、西遊記には中華料理の世界が投影されているとの事です。かの谷崎潤一郎も『美食倶楽部』において女体を中華料理に見立てて食する話を書いたように「食べること」は人生の最大テーマの一つであると改めて実感しました。

安田裕子 「タイのエイズ事情：タイのエイズホスピスの体験から」

近年、エイズ（AIDS：acquired immunodeficiency syndrome、後天性免疫不全症候群）という言葉がメディア等で報道されることが少なくなりましたが、タイでは未だに多くのエイズ患者が存在します。近年では母子感染が拡大して社会問題化しています。発表者は現地のエイズホスピスを訪ねた経験を基にしてホスピスの概要を説明されました。「エイズ患者の痛みを取り除き安らぎを得る」。終末期のエイズ病者は介入的なケアが中止され、儀礼的な手続きにしたがって死んでいく。この儀礼的死の意味は、輪廻転生を是とする世界観とケアの互酬関係によるものである。死に逝く者と医療者にとって過去を忘れること、忘れたふりをするのが看取りのケアを支えていることが報告されました。

増子保志 「とんかつ誕生の歴史的過程とその背景」

食に関するブログ等で活躍されている発表者が、「とんかつ」という名称はいつごろから使用されるようになったのかという素朴な疑問から、先行研究を調査したところ多くの疑問点を発見しました。そこで発表者は隠密裏に独自の捜査網を使って歴史資料を精査したところ、永井荷風の随筆の中に驚くべき発見があったことを明らかにしました。このことから、先行研究を鵜呑みにすることなく、まずは疑ってかかるという発表者の学問への姿勢を改めて認識しました。詳細については、後日論文として発表されるのではないかと考えられます。

草野純子 「キーワードテストと発想力の試み」

「バナナ」という言葉からどのようなイメージを想起するでしょうか？想起するイメージは個人それぞれの経験値による違いが反映されます。さらに個人の発想力が重要なファクターになっています。発表者は、社会人に希求される発想力の必要性とともに発想力を鍛える方法や発想力のある人の特徴を例示しました。発想力を支える土台として、実体験、疑似体験、意外性を狙い続ける姿勢や成功体験、美意識を常に持ち続けることが重要だという事が理解できました。まとめとして、固定観念に捉われず、独創性を重視するなど、まさに当研究部会を如実に反映したものであることを改めて認識することができた発表でした。

宮園圭太郎 「ラッパが織り成す「君が代」の調べ」

灯台のみならず音楽にも造詣の深い発表者が、海上自衛隊の基地で演奏されるラッパ曲の中に「ラッパ君が代」が存在することに関心を持ち、今日の発表に至った。ラッパは 5 音しか出ないので、そのメロディは通常の君が代とは異なる。調査の結果、陸自と海自でメロディの異なる 2 曲が存在することが判明。さらなる調査の結果、海自は発足時に軍艦旗と同じ自衛艦旗が採用された際に、旧陸海軍のメロディが復活する形で制定され、陸自は警察予備隊が発足した際に、旧陸海軍のラッパ譜は使用しないとの通達から新たに制作されたもので判明したことが報告されました。

今回の発表も多岐な分野にまたがり、今までとは異なった観点からの発表で、固定観念に捉われずに独創性のある発表が多く、目から鱗の気付きを得ることが出来、とても有意義な研究会となりました。

当部会こだわりの懇親会は、自由ヶ丘のスペイン料理の名店「イルペスカドル」で行いました。産地に拘った各種料理とフレーバードワインのサングリアやスペインワインを嗜み、学問の話題のみならず、各自の人生観など有意義な会話が弾みとても楽しい宴を持つことができました。

次回は 9 月 28 日から 29 日で熱海・大江戸温泉物語で宿泊を伴う研究会を開催する予定です。

(研究部会長 増子保志)

